



## 豪華絢爛、典雅なチャイコフスキーバレエの永遠の傑作

本作品は2014年11月に新国立劇場バレエ団のシーズン開幕を飾り新制作されたグランド・バレエです。ウェイン・イーグリングによる古典のスタイルを守りながらも現代的な感覚を活かした振付は、既存の演出とは一線を画した新しい舞台と大好評を博しました。元ダンサーとしてのセンスが光るトゥール・ヴァン・シャイクの洗練された色彩豊かな衣裳、川口直次による格調高く豪華絢爛な美術もグランド・バレエの大切なピースとして舞台を彩ります。

また、プロローグのオーロラ姫の誕生パーティや第3幕でのオーロラ姫とデジレ王子の結婚式の場面など、主役級のダンサーが次々とソリストとして登場し、新国立劇場バレエ団ダンサーの層の厚さを存分にご覧いただけます。チャイコフスキー作曲の3大バレエの一つとして世界中で愛されている古典の最高傑作で、総合芸術としてのバレエの醍醐味をご堪能ください。

※当初発表していた「吉田都セレクション」から演目を変更いたしました。

### 資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 制作部舞踊 広報担当 清水千奈美／田村昌子

Tel : 03-5352-5735 / Fax : 03-5352-5737 /

E-mail : [shimizu\\_c4725@nntt.jac.go.jp](mailto:shimizu_c4725@nntt.jac.go.jp) (清水) / [tamura\\_m3131@nntt.jac.go.jp](mailto:tamura_m3131@nntt.jac.go.jp) (田村)

## 見どころ

### 美しいチャイコフスキーの名曲たち



『眠れる森の美女』の大きな魅力として挙げられるのが、音楽から自然と物語が浮かんでくるチャイコフスキーの流麗な音楽。中でも第一幕のオーロラ姫の16歳の誕生日パーティのシーンでの踊られるガーランドの踊りは、『眠れる森の美女』で使用される音楽の中で最も有名なものの一つ。美しいワルツ曲によって踊られるこのシーンは幸福感に満ちています。

### オーロラ姫の目覚めのパ・ド・ドウ

イーグリングの振付では、オーロラ姫の目覚めのシーンにヴァイオリン・ソロによる非常に静かで落ち着いた情緒的な音楽が使用され、ロマンティックなパ・ド・ドウが挿入されます。

オーロラ姫とデジレ王子の間に愛が芽生えていく心の動きが描かれ、『眠れる森の美女』の誰もが知るストーリーに説得力を持たせる演出となっています。



### 悪の精カラボスの描かれ方



通常、悪の精カラボスはマイム役ですが、イーグリングの演出ではトゥシューズを履いた女性ダンサーによって演じられます。カラボスはリラの精と同等のパワーを持った役柄として描かれ、リラの精が体現する正義と、カラボスが体現する悪の対峙に焦点が当てられています。

冒頭でシャンデリアに載って降りてくるリラの精を地上で迎えるカラボスの場面はその象徴的なシーンの一つです。



## ものがたり

栄華を誇るフロロスタン王の宮廷は、一人娘オーロラ姫の誕生に湧き上がり、幸せに包まれている。リラの精はじめ妖精たちも招かれた晴れやかな祝祭のさなか、突然雷鳴がとどろき、激怒した悪の精カラボスが登場。手違いで、ただ一人招かれなかったことを恨んだカラボスは、「姫は編み針を刺して死ぬだろう」と、不吉な予言をする。リラの精は姫を守ることを約束し、一同は安堵する。

時は流れ、芳しく成長したオーロラ姫 16 歳の誕生日。盛大な宴が開かれている。そこに見知らぬ老婆が現れ、姫に花束を渡す。花を手は無邪気に踊る姫が突然倒れた！老婆の正体はカラボスで、花束の中に針が隠されていたのだ。姫は死んでしまったのかと宮廷の人々は悲しみに沈むが、そこにリラの精が現れ、姫と王国全体を長い眠りにつかせる。



100 年の歳月が流れた森に、デジレ王子と狩りの一行がやってくる。一人憂鬱な気持ちにとらわれた王子のもとに現れたリラの精は、王子にオーロラ姫の幻影を見せる。姫に魅せられた王子は、リラの精とともに姫が眠る森の奥の城へと向かう。城を見張っていたカラボスと手下だが、知と勇気を持つ王子を伴ったリラの精の前ではもはや無力だ。王子の優しい口づけで目覚めた姫は、愛をこめて彼を見つめる。姫もまた夢の中で王子に恋しており、時間を取り戻すように二人は愛のパ・ド・ドゥを踊る。

100 年ぶりに目覚めた宮廷では、オーロラとデジレの結婚式が盛大に行われ、幸せに満ちた若きロイヤル・カップルの門出を皆が祝福する。



2019 年公演より 撮影：鹿摩隆司

## スタッフプロフィール

### 【振付】 ウェイン・イーグリング Wayne EAGLING



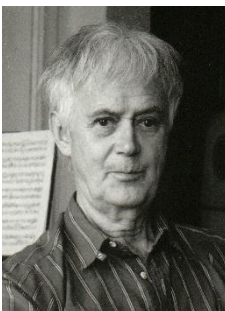
カナダのモントリオール生まれ。ロンドンのロイヤル・バレエ学校で学び、卒業後1969年に英国ロイヤル・バレエに入団。1975年にはプリンシパル・ダンサーに昇進。同バレエ団のレパートリーの主たる古典的な役の全てを踊り、マクミラン、アシュトン、バランシン、ロビンス、ハンス・ファン・マーネン、ノイマイヤー、ヌレエフ、ビントレーといった振付家の作品に出演。ロイヤル・バレエ・スクール用に『R.B.Sque』(83年)、ロイヤル・バレエ公演に『フランケンシュタイン、現代のプロメテウス』(85年)などを創作。91年にダンサーとしての現役を引退し、その後13年間オランダ国立バレエの芸術監督を務める。オランダ国立バレエのための振付作品は、『Ruins of Time』(93年)、『魔笛』(98年)、『春の祭典』(2000年)など。05年から12年までロンドンのイングリッシュ・ナショナル・バレエの芸術監督として『レゾリュション』(08年)、『Men Y Men』(09年)、『くるみ割り人形』(10年)、『遊戯』(12年)の振付を行っている。新国立劇場バレエ団では14年『眠れる森の美女』を改訂振付、16年『Men Y Men』日本初演、17年『くるみ割り人形』振付を手がけた。

### 【美術】 川口直次 KAWAGUCHI Naoji



1962年日本放送協会に入局。大河ドラマなどテレビドラマの美術で活躍するかたわら、オペラ・バレエ・演劇などの舞台美術を数多く手がける。77年伊藤嘉潮賞受賞。83年文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊。日本放送協会を退職後、武蔵野美術大学で、舞台美術、映像美術の教育に携わる。新国立劇場のバレエ公演では、『バキータ』『こどものためのバレエ劇場『シンデレラ』』、2014年『眠れる森の美女』、15年『ホフマン物語』、17年『くるみ割り人形』、オペラ公演では『セビリアの理髪師』『トスカ』『こうもり』の美術を手がけた。の代表作としては、『新 白鳥の湖』『ロミオとジュリエット』(松山バレエ団)、『ドン・キホーテ』(牧阿佐美バレエ団)など。近年手がけたオペラ作品としては『ラ・ボエーム』『フィガロの結婚』『セビリアの理髪師』(名古屋二期会)、新作オペラ『いのち』(長崎県オペラ協会公演)などがある。オペラ、バレエのほかに演劇や映画の美術を多数手がけており、代表的な映画作品に伊丹十三監督作品『静かな生活』『スーパーの女』『マルタイの女』がある。武蔵野美術大学名誉教授。

### 【衣裳】 トゥール・ヴァン・シャイク Toer van SCHAYK



アムステルダム生まれ。1955年～1959年までネザーランド・バレエで踊るが、ハーグ王立芸術アカデミーにて彫刻を学ぶために一時、ダンサーとしてのキャリアを中断する。1965年ダンスの世界に戻り、オランダ国立バレエでソリストとして活躍。1971年に振付家としてデビュー。1976年、オランダ国立バレエの常任振付家に指名され、30を超えるバレエ作品を創作。作品は、世界的なバレエ団でレパートリーとして上演されている。また、著名な視覚芸術家でもあり、世界各地で展覧会を開催している。1996年『くるみ割り人形とねずみの王様』の舞台美術と衣裳をデザインして賞賛を浴びる。本作品ではウェイン・イーグリングと共に振付けも担当し、ヘルシンキとワルシャワで上演された。1999年、再びこのコラボレーションでノーカット版バレエ『魔笛』を創作。同年、演出家ヨープ・ファン・デン・エンデによる、ミュージカル『エリザベト』の振付を担当。2003年、アシュトン『シンデレラ』の新制作を担当し、英国ロイヤル・バレエでの舞台美術デザイナーとしてデビューを果たした。また、『ロミオとジュリエット』の舞台美術デザインを行い、2009年にオランダ国立バレエの新制作バレエ『ジゼル』の舞台美術デザインを担当した。2011年、振付家および舞台美術・衣裳デザイナーとしての業績で、ブノワ賞を受賞。

**【照明】 沢田祐二 SAWADA Yuji**



東京生まれ。文化庁派遣在外研修員としてロンドン、ベルリンで演劇、オペラ、バレエの照明法を学ぶ。現在は演劇、オペラ、バレエ、ミュージカルなど幅広いジャンルで照明デザイナーとして活躍。新国立劇場におけるバレエ公演では『眠れる森の美女』『ホフマン物語』『シンデレラ』『ロメオとジュリエット』『ライモンダ』『白鳥の湖』『ジゼル』『マノン』『カルメン』『オルフェとエウリディーチェ』『椿姫』『火の鳥』『パゴダの王子』など。日本バレエ協会公演『白鳥の湖』『ジゼル』『眠れる森の美女』『アンナ・カレーニナ』なども手掛ける。他に新国立劇場ではオペラで『カルメン』『魔弾の射手』『黒船』『修善寺物語』『鹿鳴館』『夜叉ヶ池』、演劇では『城』『わが町』『アジア温泉』『ピグマリオン』『かもめ』『オレステイア』などを手掛ける。第1、10回照明家協会賞大賞、文部大臣奨励賞。第1回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞。第33回紀伊国屋演劇賞。第1回橘秋子舞台クリエイティブ賞を受賞。

**【指揮】 富田実里 TOMITA Misato**



国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業、桐朋学園大学音楽学部にて指揮を学ぶ。堤俊作、湯浅勇治、松沼俊彦に師事。2013年日本バレエ協会『ドン・キホーテ』でバレエ指揮者デビュー。その後、イングリッシュ・ナショナル・バレエ、バーミンガム・ロイヤル・バレエの客演指揮者として『ロメオとジュリエット』『くるみ割り人形』『海賊』『コッペリア』『大地の歌』『ラ・シルフィード』『美女と野獣』を指揮したほか、井上バレエ団、NBAバレエ団、東京バレエ団の公演で指揮を務め好評を得る。また、指揮者の活動以外にも様々な分野でピアニストとして活躍の場を広げている。新国立劇場バレエ団では、数々のバレエ公演で副指揮者を務め、現在レジデント・コンダクター。『シンデレラ』『くるみ割り人形』『眠れる森の美女』『アラジン』『ドン・キホーテ』を指揮した。今シーズンは『コッペリア』も指揮する予定。

**配役・プロフィール**

2021年 2月	20日(土) 14:00	21日(日) 13:00	21日(日) 18:30	23日(火・祝) 14:00
オーロラ姫	小野絢子	木村優里	米沢 唯	小野絢子
デジレ王子	福岡雄大	井澤 駿	渡邊峻郁	福岡雄大

**【オーロラ姫】**

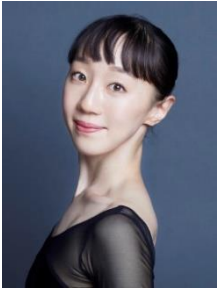
小野絢子 ONO Ayako <プリンシパル>



東京都出身。小林紀子バレエアカデミー、新国立劇場バレエ研修所を経て、2007年に新国立劇場バレエ団に入団。08年『アラジン』の主役に抜擢され、その後もほとんどの作品で主役を踊る。11年プリンシパルに昇格。13年『アラジン』、14年『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤル・バレエにゲスト主演した。11年芸術選奨文部科学大臣新人賞および舞踊批評家協会新人賞、14年服部智恵子賞、16年橘秋子賞優秀賞、19年芸術選奨文部科学大臣賞。



米沢 唯 YONEZAWA Yui <プリンシパル>



愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオ、サンノゼバレエ団を経て、2010年に新国立劇場バレエ団に入団。11年『パゴダの王子』で初主役を務め、13年プリンシパルに昇格。初演した主な役にはW.イーグリング『眠れる森の美女』オーロラ姫、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのアリス、森山開次『竜宮 りゅうぐう』プリンセス亀の姫などがある。17年芸術選奨文部科学大臣新人賞、18年舞踊批評家協会新人賞、20年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子優秀賞ほか受賞多数。

木村優里 KIMURA Yuri <ファースト・ソリスト>



千葉県出身。泉バレエ塾、橘バレエ学校で学ぶ。新国立劇場バレエ研修所を経て、2015年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。15年『くるみ割り人形』金平糖の精役で主役デビューを果たす。『ドン・キホーテ』『眠れる森の美女』『ジゼル』やF.アシュトン『シンデレラ』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』、森山開次『竜宮 りゅうぐう』で主役を踊り好評を博した。19年ファースト・ソリストに昇格。17年舞踊批評家協会新人賞、20年中川鋭之助賞を受賞。

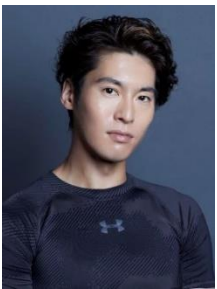
【デジレ王子】

井澤 駿 IZAWA Shun <プリンシパル>



群馬県出身。関田和代、菅居理枝子、田中洋子に師事し、2014年新国立劇場バレエ団に入団。同年F.アシュトン『シンデレラ』で主役デビューを果たし、17年プリンシパルに昇格。『ドン・キホーテ』『白鳥の湖』などの古典やR.プティ『こうもり』、P.ダレル『ホフマン物語』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』の主役、D.ビントレー『アラジン』ランプの精・ジーンなどを踊っている。18年中川鋭之助賞、20年舞踊批評家協会新人賞。

福岡雄大 FUKUOKA Yudai <プリンシパル>



大阪府出身。ケイ・バレエスタジオ、チューリッヒ・バレエ団を経て2009年新国立劇場バレエ団に入団。劇場デビューとなる『ドン・キホーテ』で主演し、以降ほとんどの作品で主役を踊る。12年よりプリンシパル。D.ビントレー『アラジン』、『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤル・バレエにゲスト主演した。17、19年ダンス公演中村恩恵『ベートーヴェン・ソナタ』でも高い評価を得る。11年中川鋭之助賞、13年舞踊批評家協会新人賞、18年芸術選奨文部科学大臣新人賞。

渡邊峻郁 WATANABE Takafumi <プリンシパル>



福島県出身。鈴木寿雄のもとでバレエを始める。2009年モナコ・プリンセス・グレース・ダンスアカデミーを首席で卒業し、仏トゥールーズのキャピトルバレエ団に入団。K.ベラルビ『美女と野獣』ほかに主演。16年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団し、19年プリンシパル昇格。古典作品の主役やC.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのジャック、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』ロメオ、『マノン』レスコー、中村恩恵『ベートーヴェン・ソナタ』ゲーテ/シラー、JAPON dance project『Summer/Night/Dream』ライサンダーなどを踊り好評を博している。

## 公演概要

2020/2021 シーズン

### 新国立劇場バレエ団「眠れる森の美女」

The Sleeping Beauty

芸術監督	吉田 都
振付	ウエイン・イーグリング (マリウス・プティパ原振付による)
音楽	ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
美術	川口直次
衣裳	トゥール・ヴァン・シャイク
照明	沢田祐二
指揮	富田実里
管弦楽	東京交響楽団
出演	新国立劇場バレエ団

#### 【公演日程】

2021年2月20日(土) 14:00  
2021年2月21日(日) 13:00  
2021年2月21日(日) 18:30  
2021年2月23日(火・祝) 14:00

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、託児サービス、バックステージツアーは当面休止させていただきます。

\*ロビー開場は開演 60 分前、客席開場は開演 45 分前です。開演後のご入場は制限させていただきます。

【会場】新国立劇場 オペラパレス (京王新線 新宿駅より 1 駅、初台駅中央口直結)

【予定上演時間】約 3 時間 15 分 (休憩含む)

【ウェブサイト】<https://www.nntt.jac.go.jp/ballet/sleepingbeauty/>

#### 【チケット料金 (税込)】

席種	S 席	A 席	B 席	C 席	D 席	Z 席*
料金 (税込)	13,200 円	11,000 円	7,700 円	4,400 円	3,300 円	1,650 円

\*Z席は舞台のほとんどが見えないお席です。予めご了承ください。

※Z席は、公演当日朝 10:00 から、新国立劇場 Web ボックスオフィス別ウィンドウで開きますおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。1人1枚です。

※上記の方法での先着販売後、残席がある場合は、開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。

※電話での予約は承れません。

#### 【前売り開始日】

アトレ会員先行発売日：2021年1月17日（日）10：00～19日（火）

バレエ／ダンス先行メンバーズ販売期間：2021年1月18日（月）10：00～19日（火）

一般発売日：2021年1月23日（土）10：00～

\*感染予防に対応した適切な距離を保つため、1階1列～3列の座席は販売いたしません。

\*通常の座席配置（1階1列～3列を除く）での販売を予定しております。

\*予定通りの発売日程で販売いたします。通常の座席配置（1階1列～3列を除く）で販売いたしますが、観客数が総席数の50%に達したところで販売を停止いたします。

当日券（Z席を含む）につきましては、50%に達していない公演のみ販売予定です。

緊急事態宣言が公演日前に解除され、イベントの開催要件が緩和された場合は、追加でチケットを販売する可能性がございます。

#### 【チケットのお求め・お問い合わせ】

<ウェブでの予約・購入>

新国立劇場 Web ボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>（PC、携帯共通）

チケットぴあ <http://pia.jp/t/>（PC、携帯共通）

イープラス <http://eplus.jp/>（PC、携帯共通）

ローソンチケット <http://l-tike.com/>（PC、携帯共通）

<電話での予約・購入>

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）

チケットぴあ TEL：0570-02-9999

\*本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡大防止対策をとって上演いたします。

新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い

[https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23\\_017576.html](https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html)